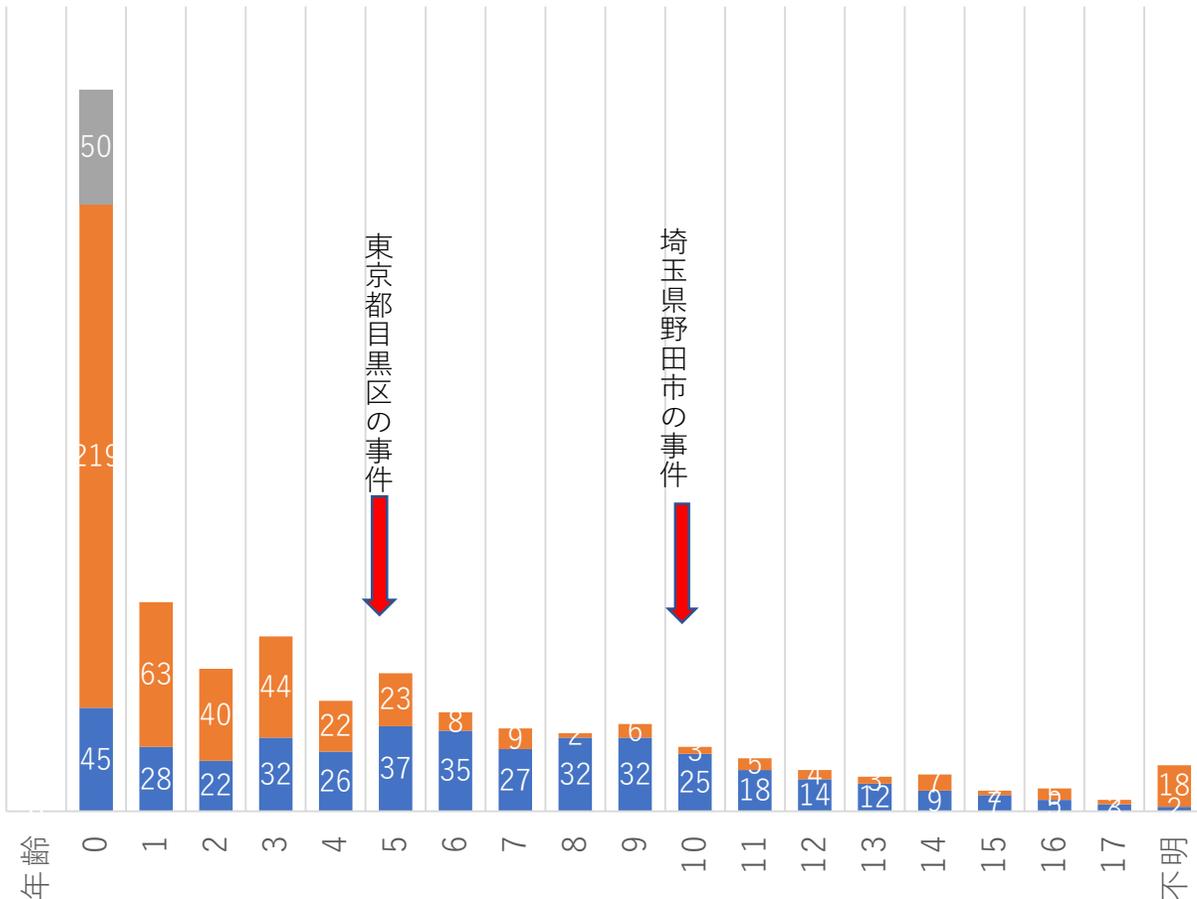


成育医療等協議会資料

日本小児保健協会会長
あきやま子どもクリニック
秋山千枝子

子ども虐待による死亡時の年齢

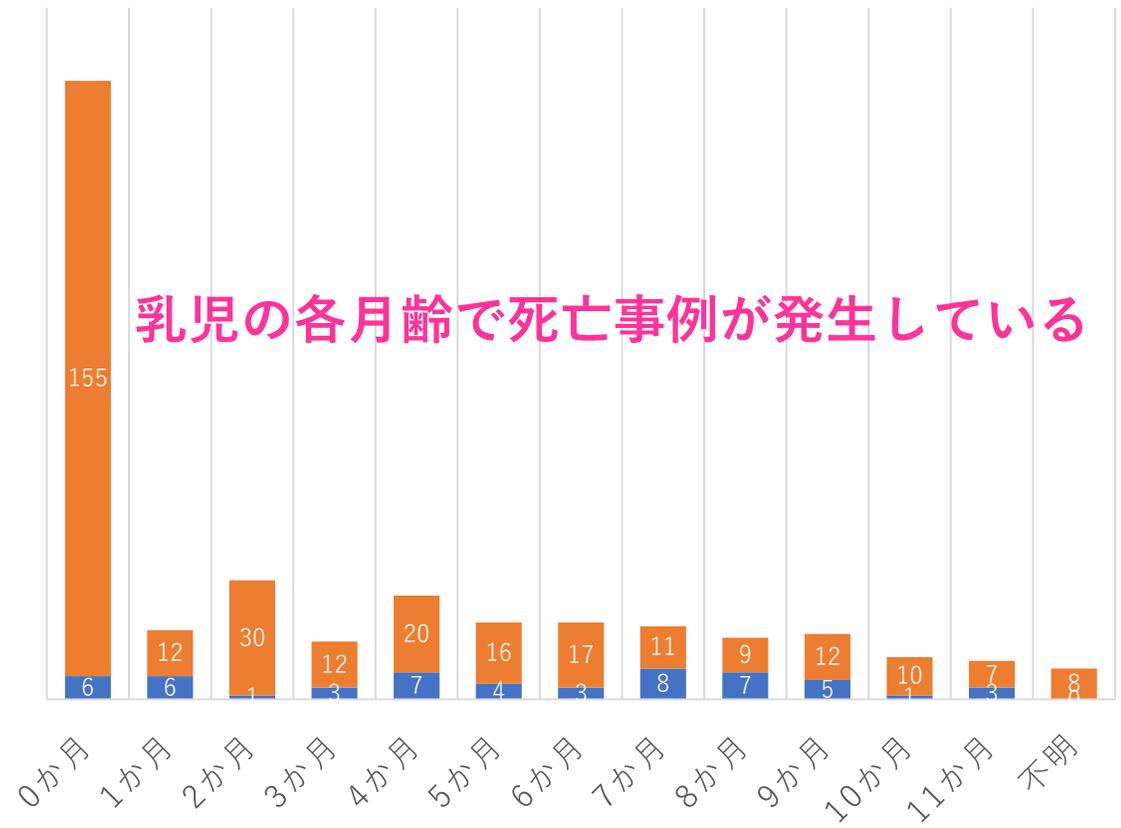
■ 心中 ■ 心中以外 ■ 心中以外(遺棄)



平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
 「子ども虐待による死亡事例等の検証結果等に関する調査研究」
 事業報告書 (第5次～14次報告より)

子ども虐待による0歳児月齢別の死亡人数

■ 心中 ■ 心中以外



乳児の各月齢で死亡事例が発生している

厚生労働省
 「子ども虐待による死亡事例等の検証について」
 第4次～第15次報告より

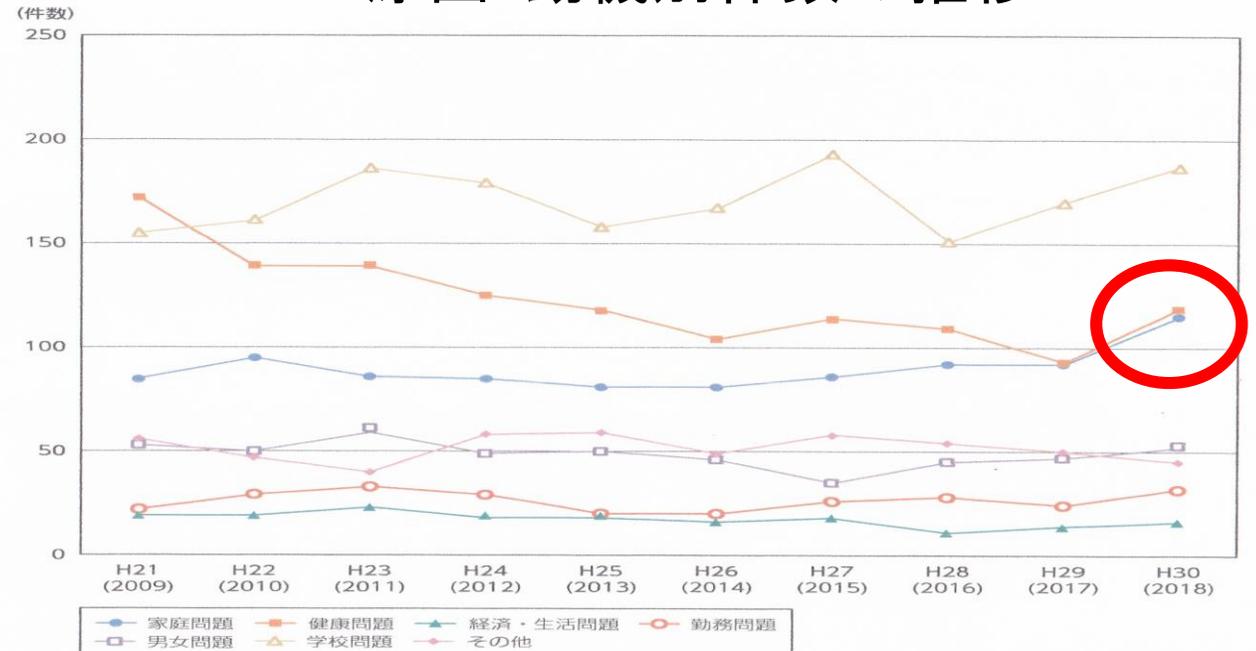
若年層の自殺者数の推移



資料：警察庁「自殺統計」

10歳代の自殺者における原因・動機は、家庭問題と健康問題が増加している

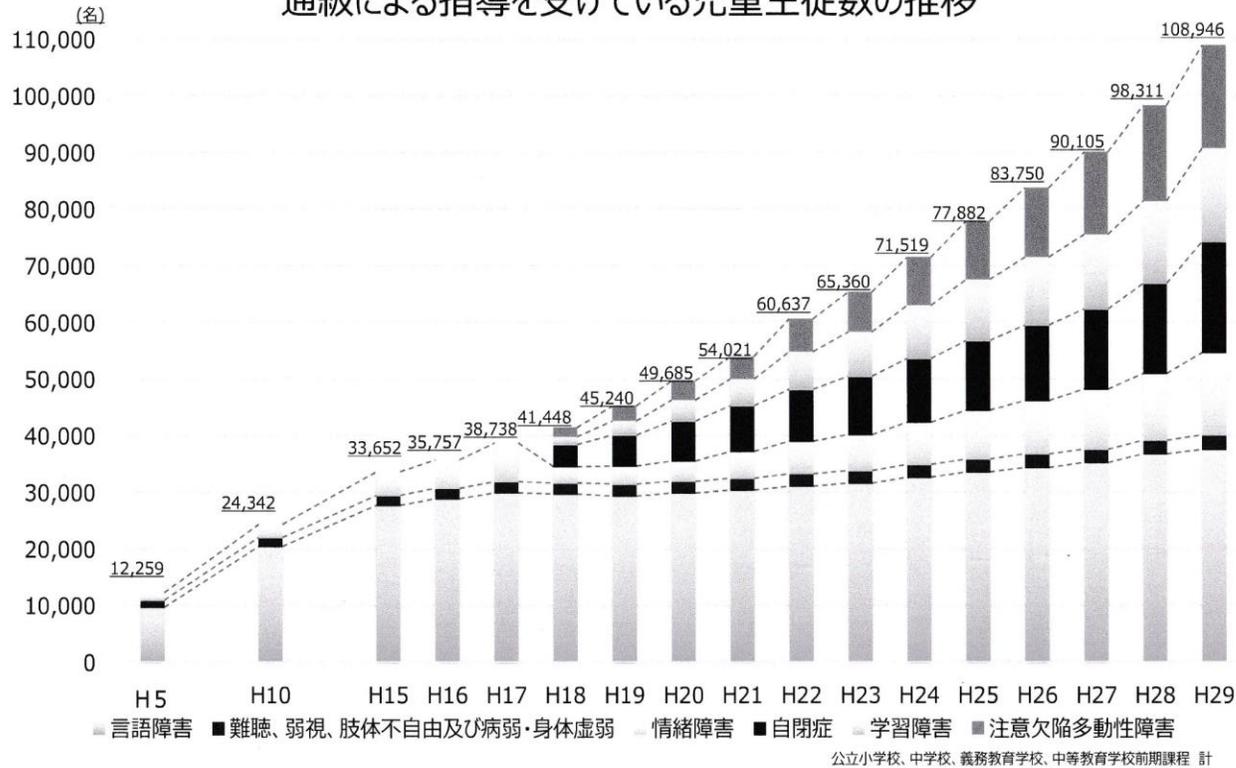
10歳代の自殺者における原因・動機別件数の推移



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

特別支援教育の現状 ～通級による指導の現状（平成29年5月1日現在）～

通級による指導を受けている児童生徒数の推移

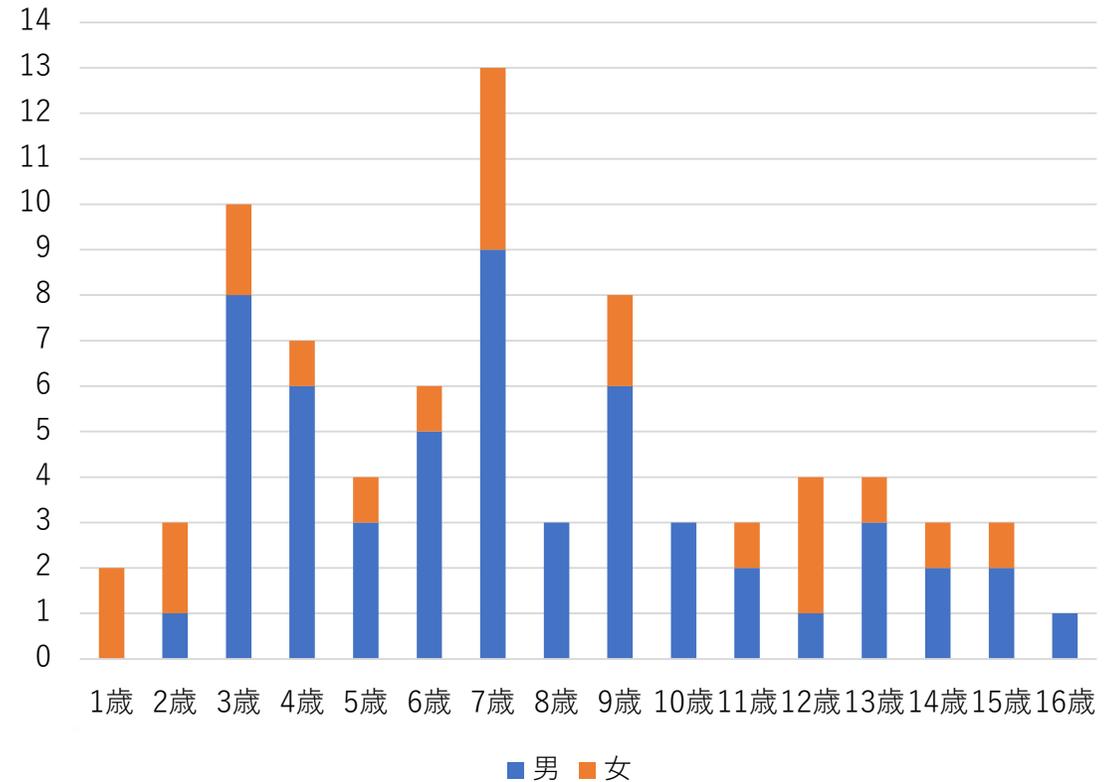


※「注意欠陥多動性障害」及び「学習障害」は、平成18年度から新たに通級指導の対象として学校教育法施行規則に規定（併せて「自閉症」も平成18年度から対象として明示：平成17年度以前は主に「情緒障害」の通級指導教室にて対応）
 ※H5、H10は参考として記載。H6～H9、H11～H14は省略

3

当診療所における心理カウンセリング新患者数

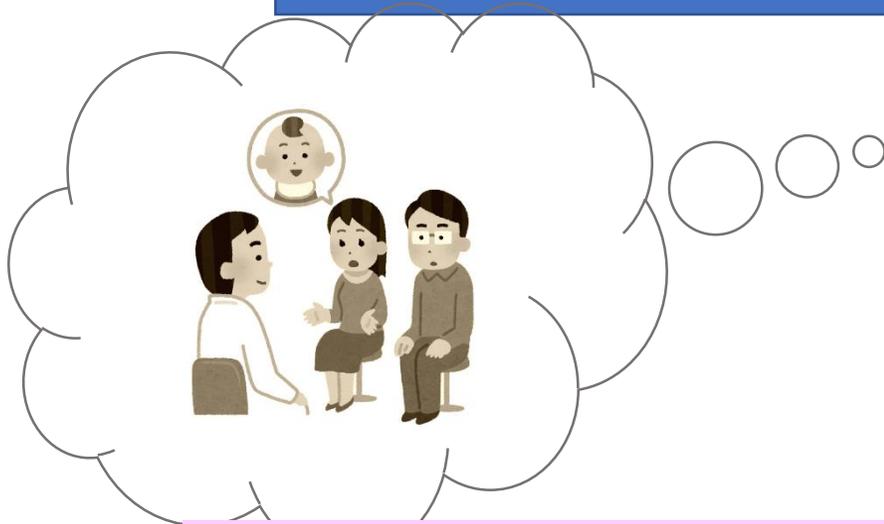
H31・R1年度 心理カウンセリング新患者数



発達障害の児童が増えており、個人の診療所における心理相談も各年齢に需要がある

小児科診療でしばしば経験すること

- 園で「医療機関へ行くよう」勧められたのですが・・・
- 学校の勉強についていけないようなのですが・・・
- 学校で、お友達とトラブルが多いのですが・・・
- 最近学校へ行かないのですが・・・
- 親の財布からお金を持ち出していることがあるのですが・・・

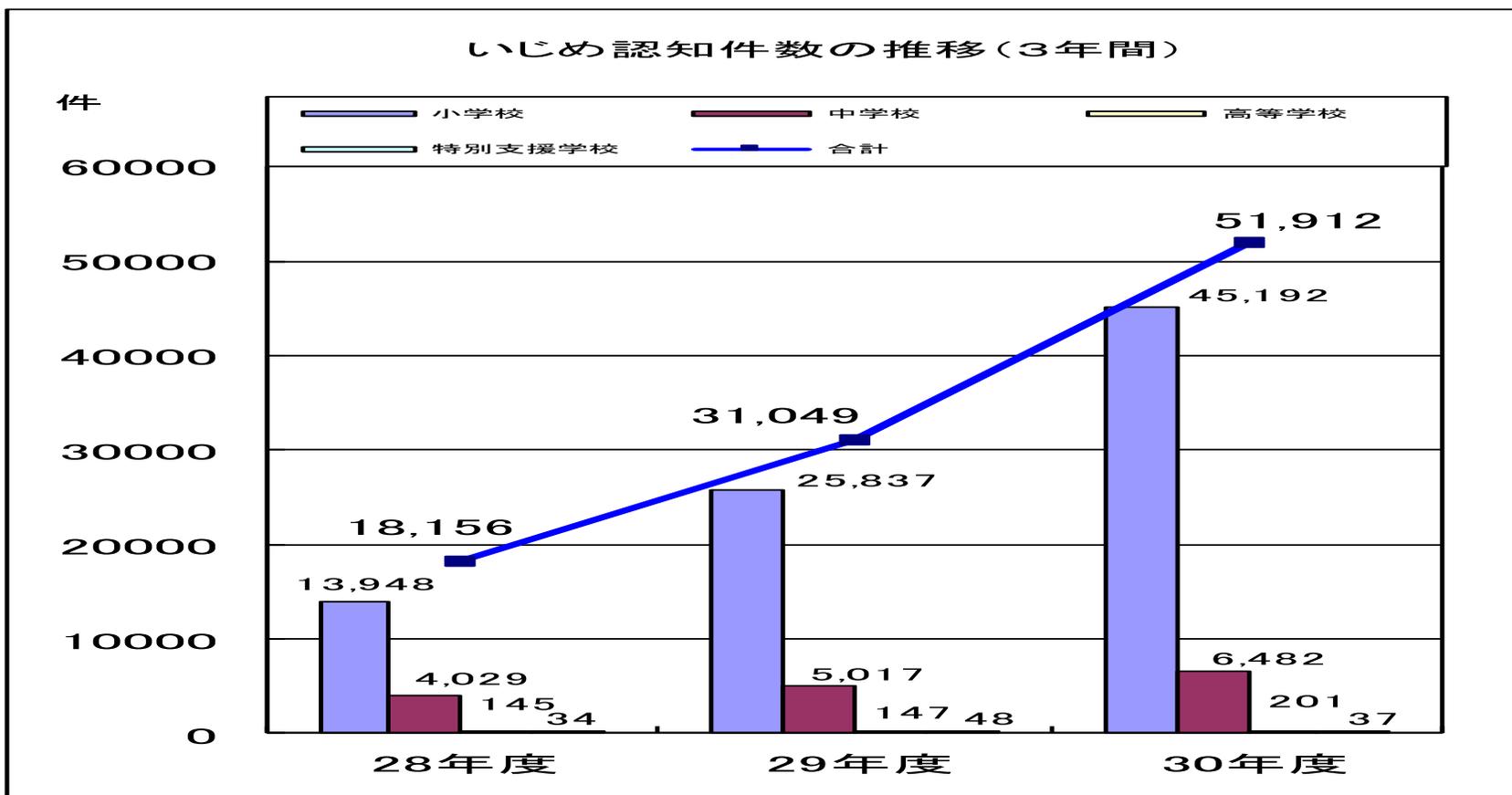


かかりつけ医で継続して寄り添うことができれば・・・

- 乳幼児健診で保護者から「育てにくさ」の相談のあった子だ
- いつもの診察で「気になっていた」子だ

平成30年度東京都公立学校における「いじめの認知件数及び対応状況把握のための調査」結果

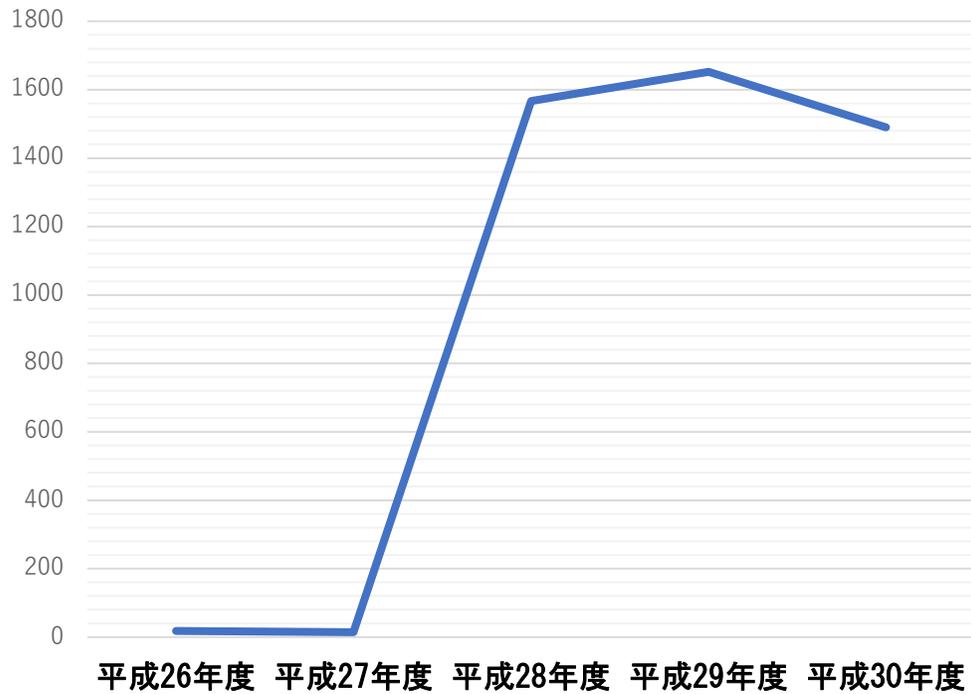
東京都教育委員会が独自に平成24年度から毎年度実施都内全公立学校2,161校学校におけるいじめの認知件数及びその対応状況について把握し、取組内容を総点検する。



件数がふえているのは、いじめが増加しているだけではなく、全員に調査を繰り返すことによって、いじめへの関心がたかまり、軽微ないじめも件数として把握できるようになっていることも影響している

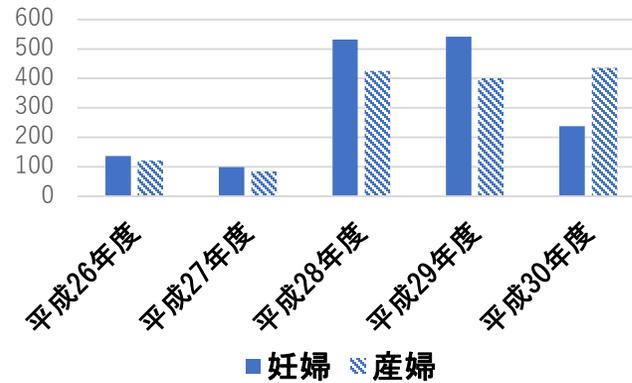
三鷹市における妊婦全数面接の効果

妊婦面接件数(延べ数)

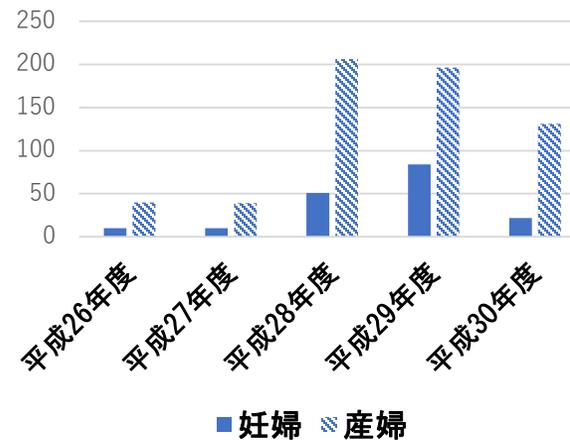


妊婦全数面接により潜在している妊婦の課題に気づくことができる

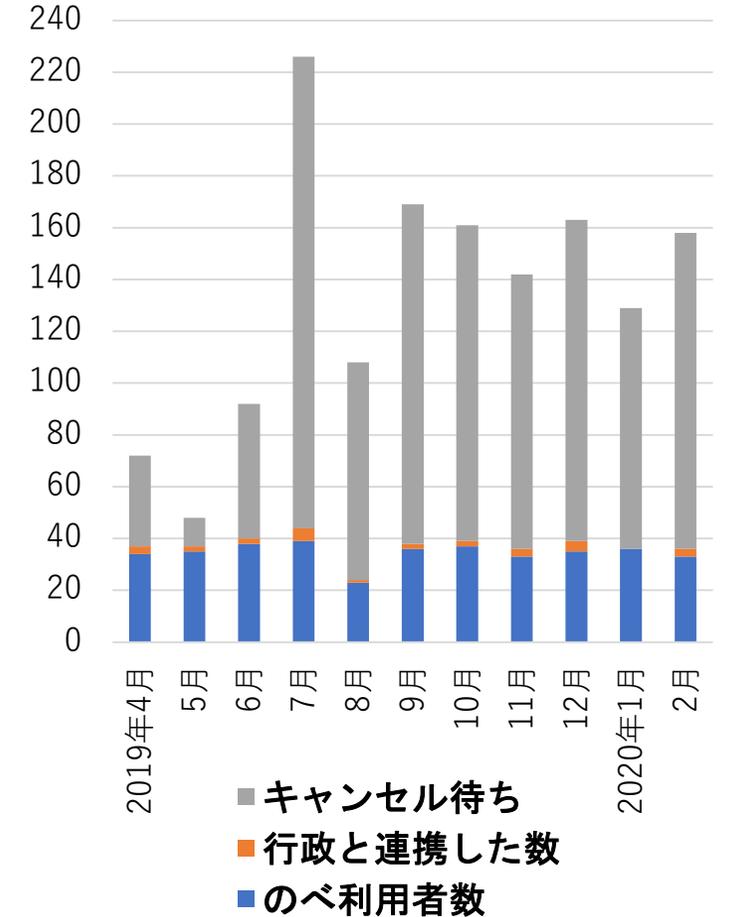
電話相談件数(延べ数)



訪問件数(延べ数)



三鷹市における産後デイケアの利用者数



妊婦全数面接の問診票 (Biopsychosocialな視点が必要)

1. 今回の妊娠について

- ・ 妊娠の受け止め
- ・ 現在の体調

2. パートナーとの関係について

- ・ 二人の関係 ライフスタイル
- ・ 現在の家事負担
- ・ 産後の協力

3. 家族(サポート体制)について

- ・ 親の健康状態
- ・ 家族関係
- ・ さぽーとのキーパーソン

4. 上の子について

- ・ 前回の妊娠、出産、育児の経過
- ・ 入院、出産時の上の子の対応
- ・ 性格、気持ち(赤ちゃん返り)
- ・ 育てにくさを感じているか

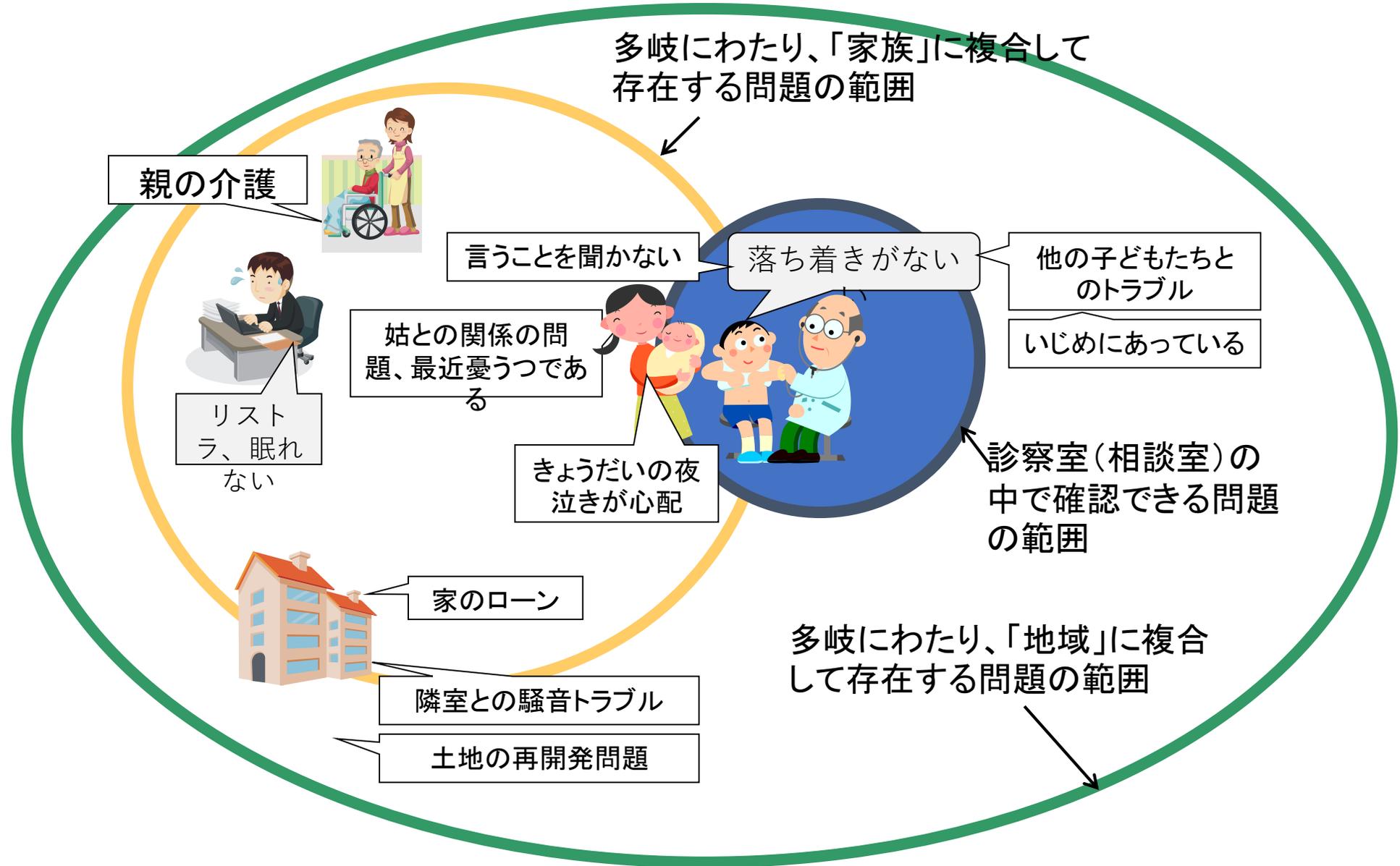
5. 現在の心配事

- ・ 出産病院決定
- ・ 住環境
- ・ 経済的な不安の有無

子どもをとりまく状況

Biopsychosocialな視点

多職種間のスピーディーな情報共有と連携



子ども虐待における多機関連携についての問題点

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について

【平成30年10月】

社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会

移管先における移管時の情報判断

問題点：移管元の児童相談所は転居の数週間前に児童福祉司指導を解除しており、ケース移管として書類の引継ぎを行ったが、移管先の児童相談所では、緊急性の高い事例と判断しなかった。転居がリスクを高める要因になるということが十分に考慮されていなかった。

子ども虐待における多機関連携についての問題点

東京都児童福祉審議会児童死亡事例等検証報告

【H29.4.27 報告】

子ども家庭支援センターの対応について

○ 子ども家庭支援センターは、多くの機関が関与し、サービスを受けていることで安心し、各機関から積極的に情報を集約し、連携するための視点が欠けていた。そのため、母が多くの機関から助言を受けるままに、あちこちに連絡を取り疲弊している状況を受け止められなかった。

課題

- 子ども虐待による死亡事例は氷山の一角であり、乳児期及び児童生徒の各月例・年齢に安全と健康の確認が必要
- 若年の自殺者が減少していず、その原因に健康と家庭の問題があることから、個別に定期的な健康及び家庭教育が必要
- 発達障害を持つ子ども達への対応が不足しており、早期に対応でき、各年齢における相談機能が必要
- 問題点を早期に発見し、多職種で支援・対応していく手法に加え、すべての子どもに予防的・計画的な子育て支援が必要
- 多職種間での情報共有とリスク管理のばらつきをなくす必要がある

対応策

- 妊婦健診から成人までの定期的な個別健診の実施
- 健診内容はBiopsychosocialな視点で、予防的・計画的な支援を行う
- 多職種連携の研究（情報共有やリスク管理及びデータ集積にICTやAIの活用）

課題に対応するだけでなく
全ての子ども達に行き届く施策